キーパーソンの役割と
アンケート結果

大阪大学　老年・腎臓内科学
猪阪善隆、八田告

キーパーソンの役割

- CKD治療連携の促進として、研究会・地方学術講演会の報告を行う。
- 総会、東西学術大会の活性化のために、座長をしていただく。また、司会者や演者の推薦をしていただく。
- J-KDR, J-RDR, FROM-J,その他公的研究班への支援ならびにデータを利用や、コホート研究（学会公募研究）へ参加していただく

学会が承認する研究会

ただし、1年間で2単位、5年間で10単位まで

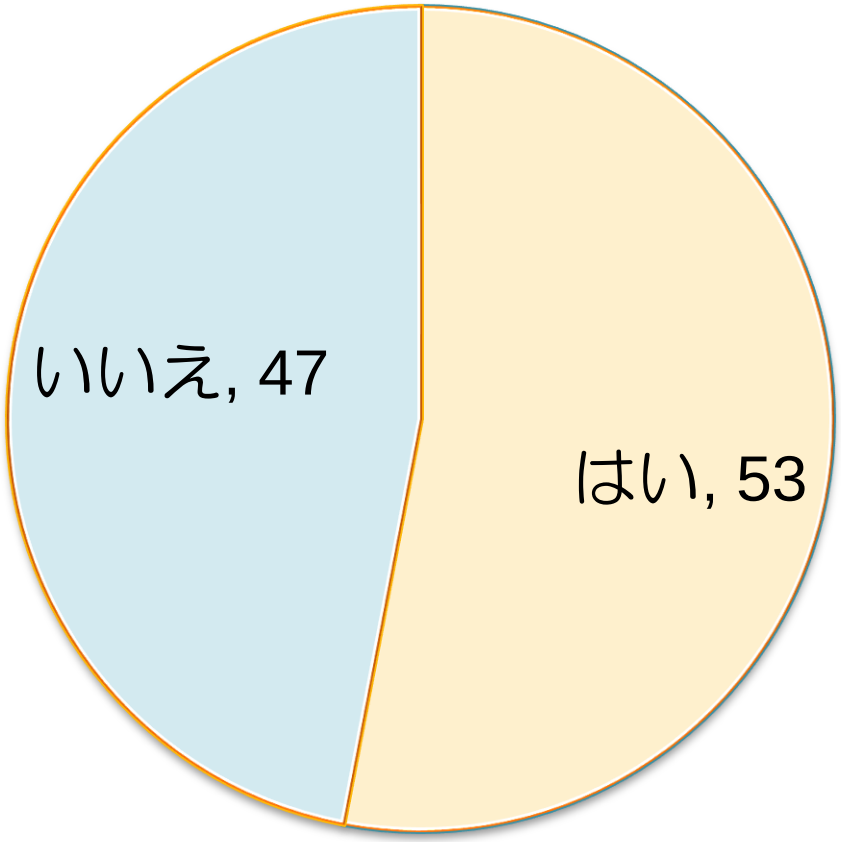
腎臓領域の研究会で、教育上有益な集会であり以下の項目を満たすこと。

1. 少なくとも県単位以上の集会で、最低年1回の定期開催（既に5年以上連続開催）があること。
2. 自由参加を認め、半日（3時間）以上で一般演題の発表があること。
3. 会則・規定・会計報告・事務局（事務担当者）が整備されていること。
4. 会費あるいは参加費納入の義務があり、主催者が製薬・試薬などの企業でないこと（複数の企業との共催は可）。
5. 集会参加証の発行があること。
6. プログラムおよび抄録が発行されること（印刷またはWEBサイトによる）。

申請用紙はHPからダウンロードできます
特に学会に参加できない先生のために申請ください

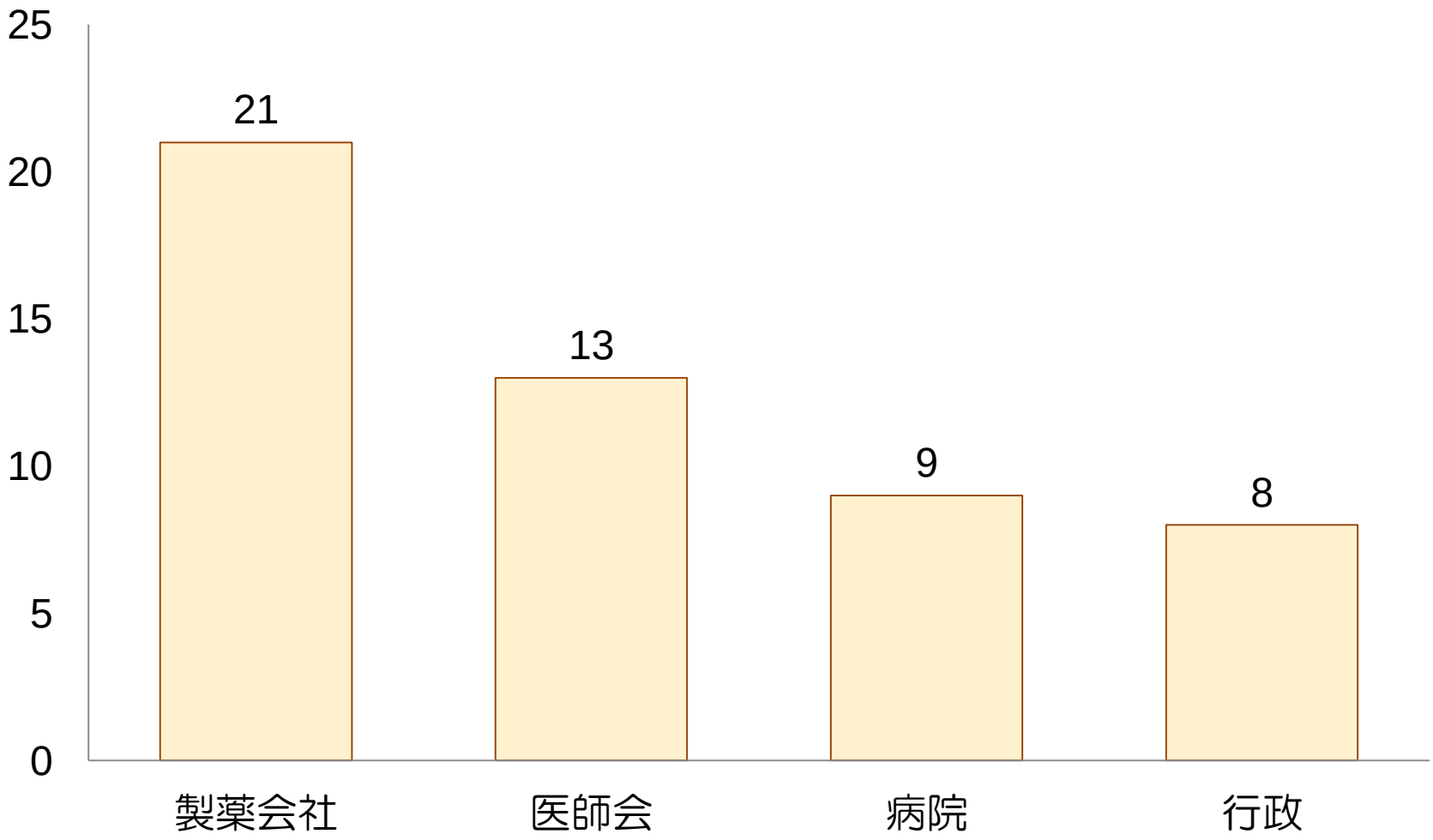
腎臓学会HP　腎臓専門医　学会が承認する研究会の認定基準
http://www.jsn.or.jp/specialist/senmon_1331.php

かかりつけ医との定期的勉強会をしていますか？



単位%; 回答数45

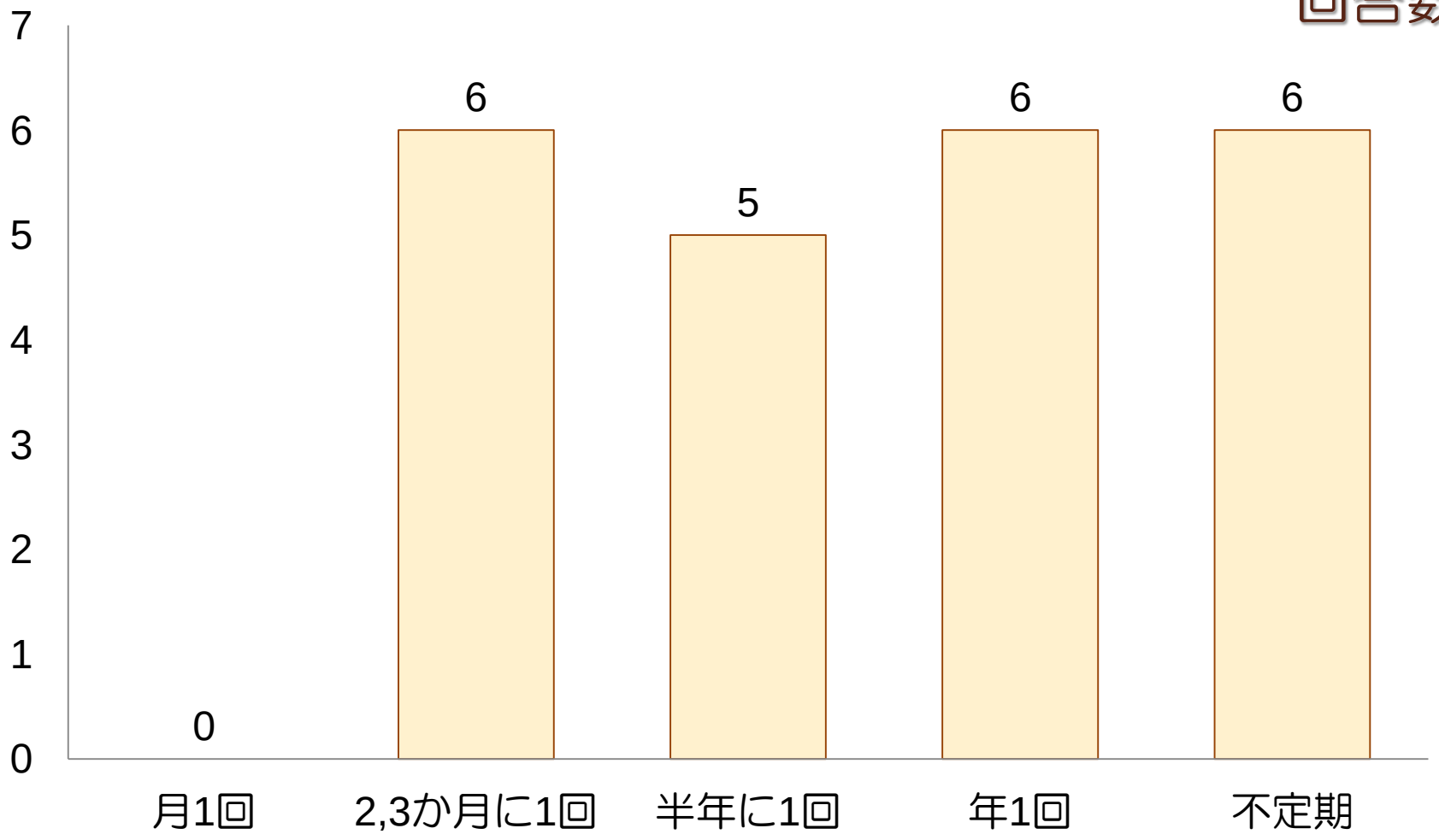
かかりつけ医との勉強会
主催（あるいは共催）は？



回答数24,複数回答あり、行政は保険所なども含む

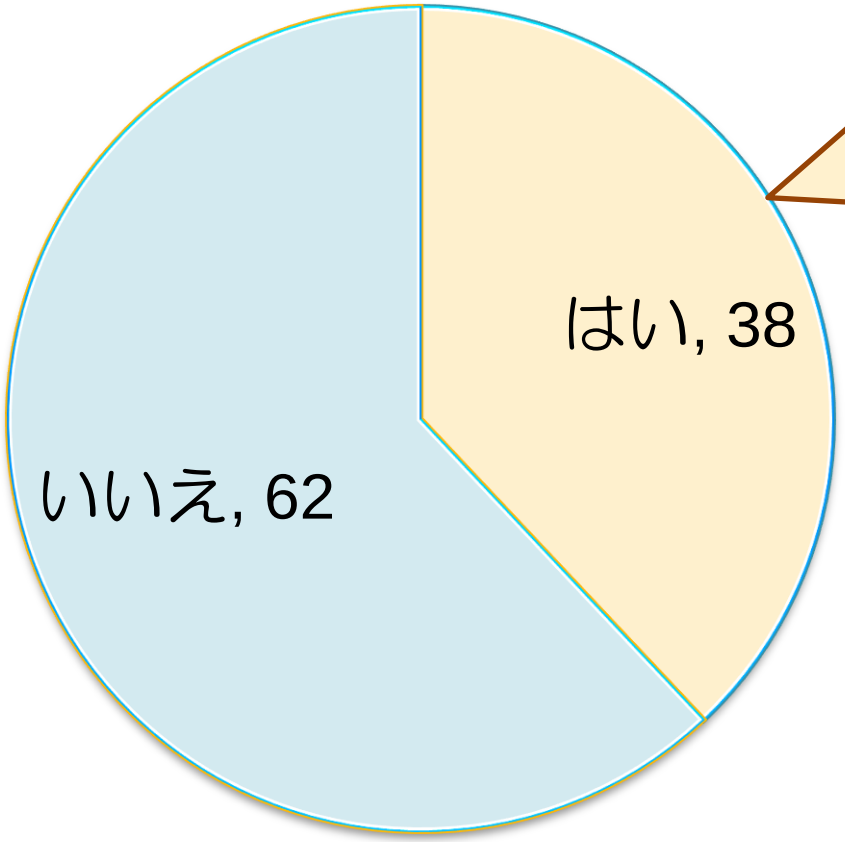
かかりつけ医との勉強会
主催（あるいは共催）は？

回答数23



不定期の中には、主催により頻度が異なる場合も含まれる

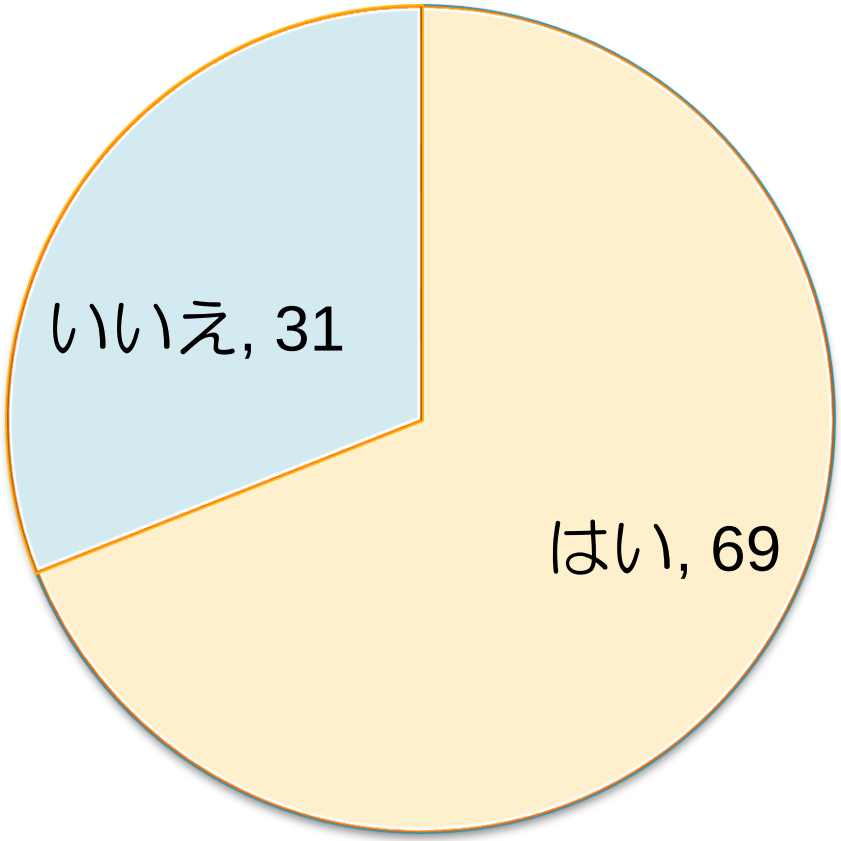
保健師など行政との勉強会や連絡協議会をしていますか？



多くは、県などのCKD連絡協議会。
その他、保健師とのつながりをもとに行政と関わることになったという回答多し

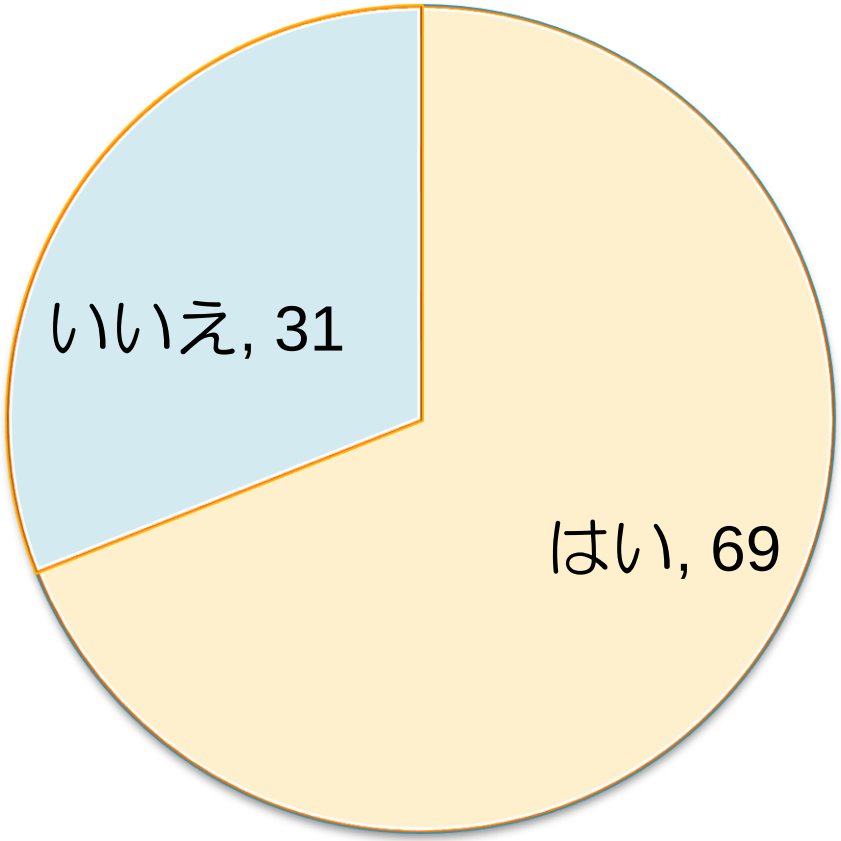
単位%; 回答数45

保存期腎不全検査教育入院をしていますか？



単位%; 回答数45

腎臓病教室などの患者指導をしていますか？

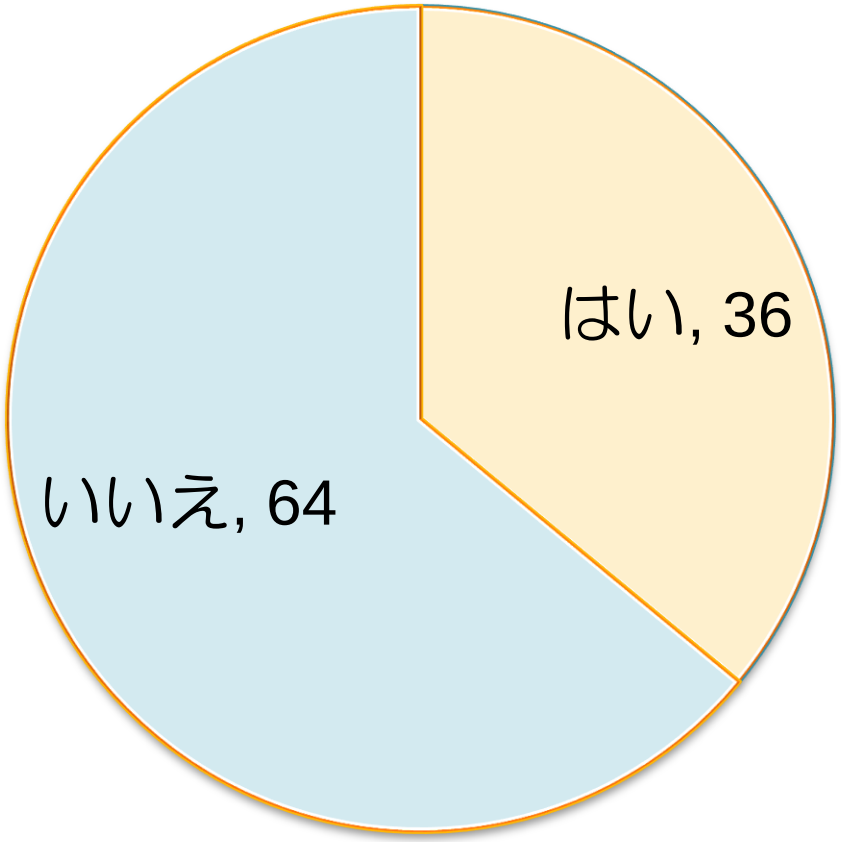


単位%; 回答数45

保存期腎不全検査教育入院をされている施設の先生への質問

1. 検査教育入院のクリニカルパスを作成していますか？
2. クリニカルパスに腎臓病教室を組み込んでいますか？

かかりつけ医とのCKD連携パスなどの仕組みがありますか？

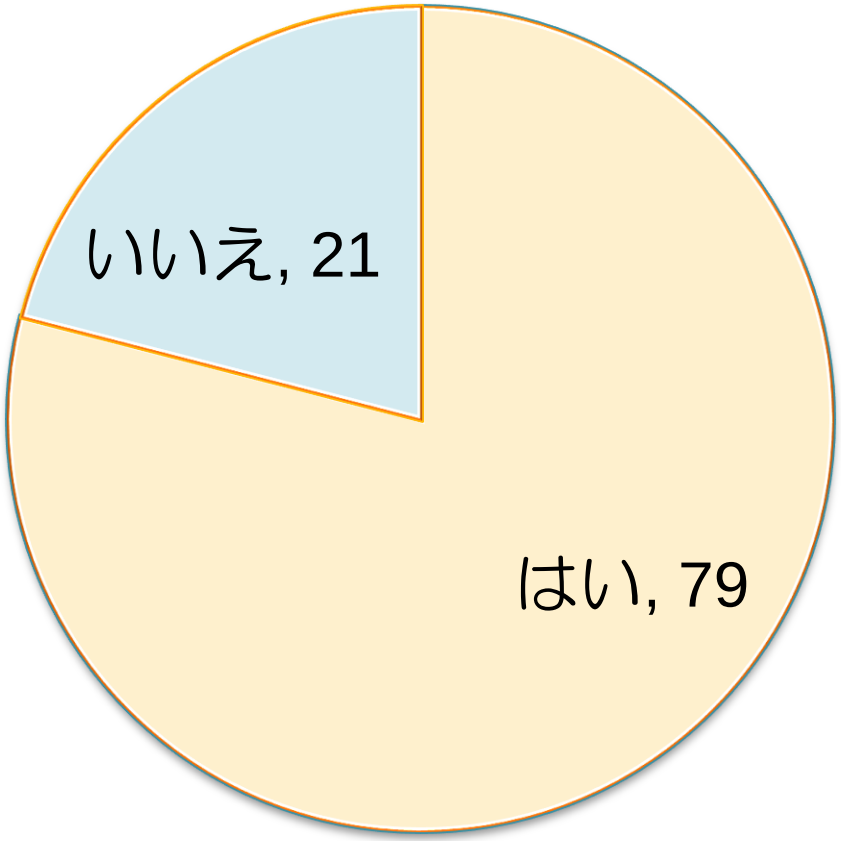


単位%; 回答数45

CKD地域連携パスを開始するために苦労した点

- 紹介基準と再紹介基準の策定や紹介または再紹介ツール開発
- 専門医間の意見のすり合わせ
- 開業医の先生の理解、他地域・各医師会との連携
- 受診の結果がすべて一か所(医師会）に集約されるためのシステム
- 地域の先生の認知度

CKD連携パスなどの仕組みがない方への質問
CKD連携パスなどは必要と思いますか？



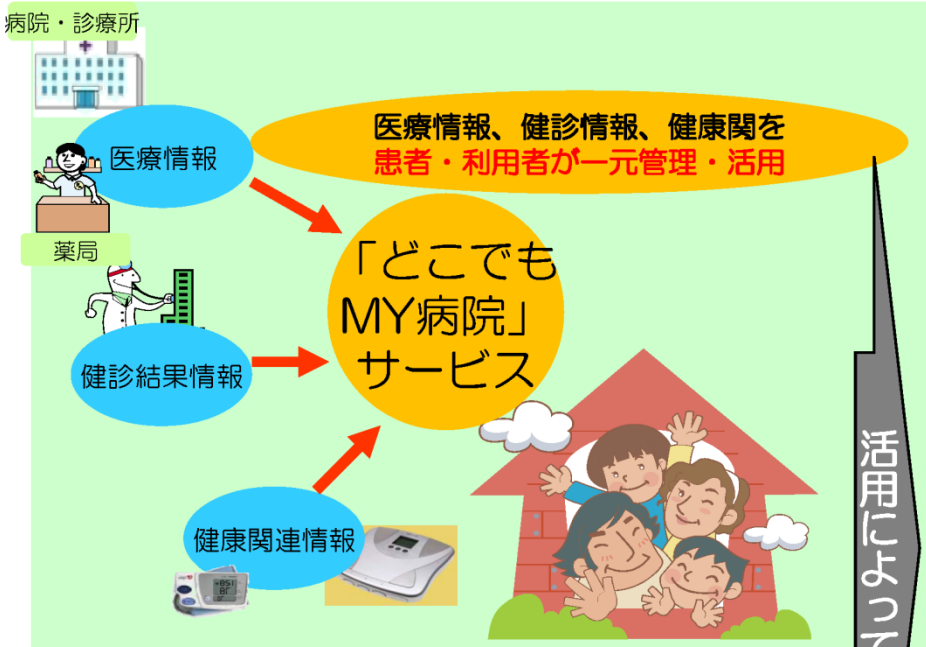
単位%; 回答数29

CKD地域連携パスが不要と思う理由

- 従来の紹介状+経過報告で十分連携がとれる。パスは煩わしくて使用してもらえない
- 患者さんの個人差が大きく、それぞれに応じてかかりつけ医との連携を図っている
- かかりつけ医の温度差が大きい
- 各施設で独自のパスを利用しており、統一が難しい

「どこでもMY病院」構想

医療機関、健診機関、家庭などに散在している個人の医療・健康情報を、個人が自らの生活の質の維持や向上を目的として、一元的に収集・保存・活用するための情報サービスの創出



個人の情報オーナーシップ（国民主体）
医療機関等より個人が入手した健康情報を、個人の情報オーナーシップのもとで活用

個人の生涯記録を一元管理可能
医療情報にとどまらず、健康関連情報、健診情報なども含めた医療・健康情報を個人が一元管理。医療機関の法定保存義務機関（診療録は5年）を超えた生涯記録が可能。

活用によって

国民の積極的健康管理サポート

・生活習慣病の予防

・生活習慣病など慢性疾病患者のケアとサポート・重症化を防止

医療機関、健康サービスと血圧・体重・血糖値などを共有することで、疾病予防や重症化回避可能

医療の質向上

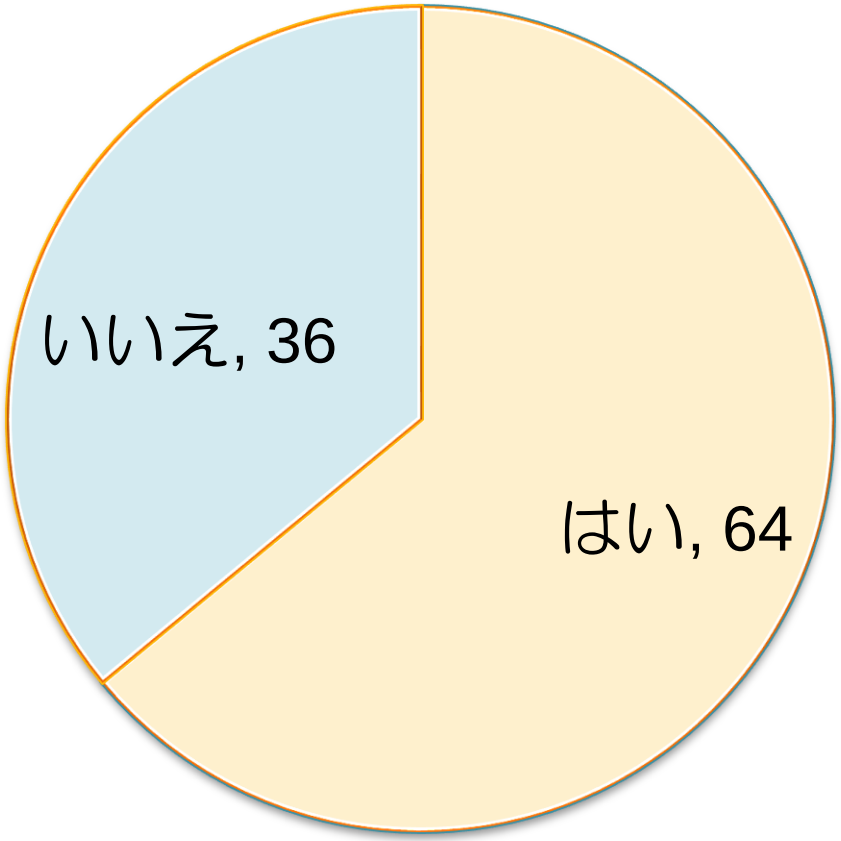
・出張、旅行、転居しても、過去の健康情報、診療履歴に応じて適切な医療が全国どこでも受診可能

・投薬歴を医療機関と共有

健康IT産業の創出

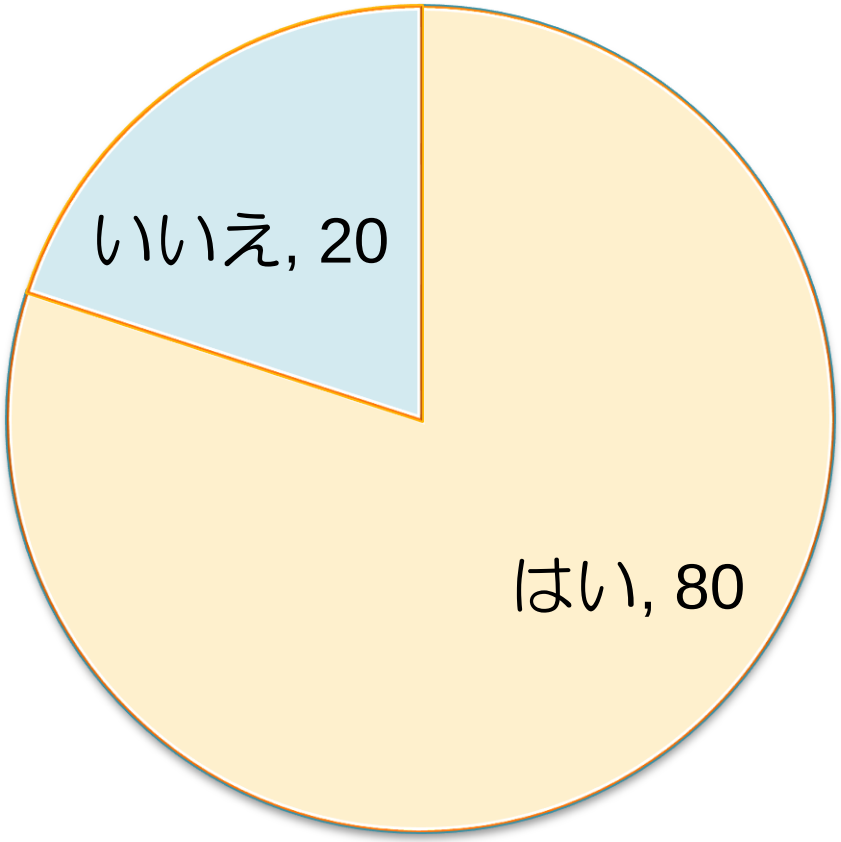
・情報サービス事業、対応機器市場、蓄積データの活用事業など新産業創出

CKD連絡協議会など、行政とCKD対策を話し合う仕組みはありますか？



単位%; 回答数45

患者や市民への定期的な勉強会や公開講座の開催はありますか？



単位%; 回答数45

CKD連携に関するご意見

- 各年度ごとに目標を決める
- 診療所の先生に向けたニュースレターを学会から情報発信する
- 全国的な啓発用のグッズがあればよい
- ガイドライン改定等に当たっては、パワーポイント等で利用できるものを配布してほしい
- キーパーソンを支える人的・経済的窓口（人的支援としては、腎臓学会サポーター制度を発足予定）
- CKD連携に関しては地域差がある。解消のために腎臓学会が中心となる必要があり、キーパーソンが重要
- 連携やCKD啓発を進めるうえで、行政やマスコミをうまく活用する必要あり。アンケートを見る限り、特に保健師の関与が重要な印象があり